

会 議 概 要

会議の名称	第3次社会教育中期計画策定に係る第1回第2部会（家庭教育・成人教育・高齢者教育）会議
開催日時	令和4年7月25日（月） 18時00分 開会 20時30分 閉会
開催場所	上湧別農村環境改善センター A研修室
出席者名	山本副委員長、梅田委員、毛利委員、渡辺委員、山口委員 5名 オブザーバー～深谷委員長 教委～坂本課長、渡辺主査
欠席者名	なし
傍聴人の数	なし
会議の内容	1. 開 会 2. 委員長あいさつ 3. 議 事 議案第1号 第3次社会教育中期計画第2部会長の選出について 議案第2号 家庭教育・成人教育・高齢者教育における現状と課題について 4. 閉 会
会議資料	第3次社会教育中期計画策定に係る第1回第2部会（家庭教育・成人教育・高齢者教育）会議議案
会議録	<input checked="" type="checkbox"/> 有 （ <input type="checkbox"/> 全文筆記 <input checked="" type="checkbox"/> 要点筆記 ） <input type="checkbox"/> 無
備考	

てん末書

1 日 時

令和4年7月25日(月) 18時00分～20時30分

2 会 場

上湧別農村環境改善センター A研修室

3 会議及び用務

第3次社会教育中期計画策定に係る第1回 第2部会（家庭教育・成人教育・高齢者教育）会議

4 出席者

部会担当委員～山本副委員長、梅田、毛利、渡辺、山口各委員 5名（欠席なし）

オブザーバー～深谷委員長

教委～坂本課長、渡辺主査

5 結果要旨

1. 開 会
2. 深谷委員長あいさつ
3. 議 事

○議案第1号 第3次社会教育中期計画第2部会長の選出について
～梅田委員を選出（以下梅田部会長が議事進行）

○議案第2号 家庭教育・成人教育・高齢者教育における現状と課題について
～会議結果反映後の文章は別添のとおり

【家庭教育に係る主な意見】

（渡辺委員）：家庭教育研修会は、「研修会」という名称が参加しにくい。研修会というだけで嫌がる方も多し。また、交流も苦手と

いう方も多い。

(山口委員) : 今はインターネット（動画配信、SNS）ありきの社会となっている。有益な情報と有害な情報が混在しており、取捨選択しなければならないが、保護者にとっても未熟な部分があり、今は過渡期であると考えている。

(梅田委員) : 今後の課題に「地域で話せる場（サロン）の創設」を加えたい。子ども食堂であるとか、ポレポレの食堂のような異世代の方々が集まることのできるたまり場のようなものが必要と感じている。

【成人教育に係る主な意見】

(梅田委員) : 普段とは違うエリア（場所、分野）に踏み出すことで新しい世界が広がる⇒豊かになる。という事が成人教育ではないかと感じている。

(山本委員) : 町民大学もふるさと講座、お宝を訪ねる旅もまさに新しい世界が広がり豊かになる事業と言える。

(梅田委員) : 団体活動について、各サークルのお披露目、見本市のようなものがあると良い。湧く湧くに掲示板のような1コーナーを作ってはどうか。活動を知ってもらえるし、入りたいけどどうしたらよいかわからないという方もいる。

(坂本課長) : 広報ゆうべつで少年団指導者の活動を紹介するコーナーが最近できた。また、文化連盟ではお披露目の場として総合文化祭を開催している。

(梅田委員) : 今後の課題に「団体の情報を発信できる場を提供する」を加えたい。

(梅田委員) : 青年団、異業種間のつながりが少ないと感じている。

(※青年教育に関連するため第1部会に意見を引き継ぐ)

【高齢者教育に係る主な意見】

(渡辺委員) : 介護予防の事業を実施しているが、男性のみで募集すると参加率がよい。女性の中に入りづらいという男性が多いようだ。社会教育の事業でも参考になると思う。

(坂本課長) : 遠軽町の中期計画で「高齢者教育」から「シニア教育」と名称変更した。

(渡辺委員) : シニアの方がやわらかい印象がある。

(梅田委員) : 文章の中で「健康寿命」という文言を入れるべき。また、アクティブシニア事業の位置づけについても検討したい。時間がないので次回までに皆さん考えてきてください。

○その他 次回の部会は 8/19 (金)

文化センターTOM 2階第2会議室 18時30分～

第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（家庭教育）検討資料

第3次社会教育中期計画（素案）	第3次社会教育中期計画（会議結果を反映）	備考
<p style="text-align: center;">第1節 家庭教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【家庭教育の現状と課題】 家庭教育はすべての教育の原点であり、出発点でもあります。 子どもにとって「家庭」は、子ども自身が家族から愛され、かけがえのない存在であることを実感し、心の安定と安心を得て「生きる力」を養う場所であるとともに、家族の歴史や生き方を学び、社会生活に必要な望ましい生活習慣やマナーなどを身につけるところです。 家庭を取り巻く環境は、多様で便利な生活が実現する一方核家族化により家庭教育は孤立の傾向にあります。 <u>生活スタイルや価値観の多様化は、地縁的なつながりを希薄にし、近所での気軽な話し合いや助け合いを減少させています。加えて核家族化は、親から子育ての援助や知恵が得られにくい状況をつくり出しています。とりわけ、子どもを通して他の親と交流する機会の少ない0～3歳児を持つ核家族の親にとっては、子育ての不安や悩みを相談しにくい環境に置かれているといえます。子どもはまちの宝であり地域全体で守り育てていかなければなりません。</u> 現在、子どもの誕生を祝う民間有志団体が発足し、活動を続けています。一方、幼保小中高生の保護者を対象に家庭教育の大切さを学習する場として開催している「家庭教育研修会」は異年齢の親が一堂に会し、交流を深め、経験から学ぶ良い機会ですが、参加者が少ない状態が続いています。 <u>周囲との関わりに消極的な家庭も見受けられるため、開催方法の工夫により参加を促すことも必要です。そのほか、個別の事情に寄り添う教育アドバイザーによる常設の家庭教育相談も実施しています。乳幼児期の家庭教育支援については、ブックスタートをはじめとする図書館事業や民間団体によるブックカフェの実施、子育て支援課による育児学級事業などがありますが、情報の発信・共有を含め連携が必要です。</u> 子どもが置かれている環境は危うい状況です。社会のモラルが低下し、非人道的な犯罪が頻発し、有害な動画配信やSNS等を通して、大量の情報が刺激的に子どもたちの中に入り込んでいます。発達段階を無視して整理されないまま子どもの中に入ってくる大量の情報は、健やかな成長の阻害要因になり、いじめ、非行、犯罪への誘発要因ともなっています。家族が一緒に集い暮らし、団らんの語らいの中でゆったり行われる家庭教育の役割、重要度は、今日より大きくなっているといえます。</p> <p><今後の課題> ○ 家庭と地域の教育力向上を図るために、地域社会における家庭教育支援の大切さを広く周知する必要があります。 ○ 0～3歳児を持つ親への支援や団体間の連携を強化する必要があります。 ○ 保護者同士の交流を図る機会を創出する必要があります。</p> <p>○ 開催場所の設定にあたって保護者が集まるような場所に向向くことも、検討が必要です。 ○ 家庭教育支援に関わる機関や子育て支援担当部署との情報の共有・連携を強化する必要があります。 ○ 孤立しがちな子育て世代を支援するため、<u>ボランティア</u>を育成する必要があります。</p>	<p style="text-align: center;">第1節 家庭教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【家庭教育の現状と課題】 家庭教育はすべての教育の原点であり、出発点でもあります。 子どもにとって「家庭」は、子ども自身が家族から愛され、かけがえのない存在であることを実感し、心の安定と安心を得て「生きる力」を養う場所であるとともに、家族の歴史や生き方を学び、社会生活に必要な望ましい生活習慣やマナーなどを身につけるところです。 家庭を取り巻く環境は、核家族化により孤立の傾向にあります。</p> <p><u>核家族化は、親から子育ての援助や知恵が得られにくい状況をつくり出し、生活スタイルの多様化は、地縁的なつながりを希薄にし、近所での気軽な話し合いや助け合いを減少させています。とりわけ、子どもを通して他の親と交流する機会の少ない0～3歳児を持つ核家族の親にとっては、子育ての不安や悩みを相談しにくい環境に置かれているといえます。</u> <u>子どもはまちの宝であり地域全体で守り育てていかなければなりません。</u> 現在、<u>幼保小中高生の保護者を対象に家庭教育の大切さを学習する場として開催している「家庭教育研修会」は異年齢の親が一堂に会し、交流を深め、経験から学ぶ良い機会ですが、参加者が少ない状態が続いています。個別の事情に寄り添う教育アドバイザーによる常設の家庭教育相談も実施しています。乳幼児期の家庭教育支援については、ブックスタートをはじめとする図書館事業や民間団体によるブックカフェの実施、子育て支援担当課による育児学級事業などがありますが、周囲との関わりに消極的な家庭も見受けられるため、開催方法の工夫や情報発信、団体間の連携が必要です。</u></p> <p>子どもが置かれている環境は危うい状況です。社会のモラルが低下し、非人道的な犯罪が頻発し、有害な動画配信やSNS等を通して、大量の情報が刺激的に子どもたちの中に入り込んでいます。発達段階を無視して整理されないまま子どもの中に入ってくる大量の情報は、健やかな成長の阻害要因になり、いじめ、非行、犯罪への誘発要因ともなっています。家族が一緒に集い暮らし、団らんの語らいの中でゆったり行われる家庭教育の役割、重要度は、今日より大きくなっているといえます。</p> <p><今後の課題> ○ 家庭と地域の教育力向上を図るために、地域社会における家庭教育支援の大切さを広く周知する必要があります。 ○ 0～3歳児を持つ親への支援や団体間の連携を強化する必要があります。 ○ 保護者同士の交流を図る機会を創出する必要があります。</p> <p>○ 開催場所の設定にあたって保護者が集まるような場所に向向くことも、検討が必要です。 ○ 家庭教育支援に関わる機関や子育て支援担当部署との情報の共有・連携を強化する必要があります。 ○ 孤立しがちな子育て世代を支援するため、<u>サポーター</u>を育成する必要があります。 <u>○ 異世代の方々が地域で話せる場（サロン）を創設する必要があります。</u></p>	

第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（成人教育）検討資料

第2次社会教育中期計画（素案）	第3次社会教育中期計画（会議結果を反映）	備考
<p style="text-align: center;">第4節 成人教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【成人教育の現状と課題】 成人期は、職場や家庭、地域において、中心的な役割を担い、体力、知力的に最も社会に貢献できる時期であり、それぞれの立場で、地域や団体活動の中心的役割を果たすことが期待されている時期です。 しかし成人期は、その立場から毎日が忙しく、社会参加や自主的な活動は、参加の意欲がありながら難しい状況にあります。 一方で成人の75歳以上を高齢期として区分し、65歳から74歳までを社会に参加しながら健康な高齢期に備える時期と定義する動きもあります。65歳から74歳までの町の人口は1,411人で総人口の17.2%（令和4年6月末）を占めていますので、この世代を成人期に区分することで人材の幅は大きく広がります。しかしこの世代の現状としては、地域の中心的担い手として活躍する方がいる一方で、地域活動に消極的な方も少なくありません。 現在、町民を講師に迎えて、町の歴史、産業、自然等を町民が学ぶ機会を提供する「ふるさと講座」が町民有志によって運営され、さまざまにつながりが生まれ定着しつつあります。また、実行委員会が運営する「町民大学」では、高度で専門的な学習要求に応えるため、第一線で活躍している講師を招いて実施し、町民の貴重な学習機会になっていますが、参加数は講師の知名度に大きく左右される状況が続いています。また、ボランティア団体、PTA等の社会教育関係団体や有志によるグループ・サークルが自主的に講座や鑑賞会などの社会教育活動を行っており、これらの活動に対して教育委員会が必要な支援を行っています。 今後は、働き盛りの成人と退職後の成人がそれぞれの役割を補い合い、世代間、産業間等の連携をとりながら、世代を束ねるリーダーとなるよう積極的に地域と関わることを求められています。</p> <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふるさと講座」は、湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会および指導者養成の場として支援する必要があります。 ○ 「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開を奨励する必要があります。 ○ 時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要があります。 ○ 世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画やまちづくり等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要です。 ○ 学習を支援するコーディネーターを育成する必要があります。 	<p style="text-align: center;">第4節 成人教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【成人教育の現状と課題】 成人期は、職場や家庭、地域において、中心的な役割を担い、体力、知力的に最も社会に貢献できる時期であり、それぞれの立場で、地域や団体活動の中心的役割を果たすことが期待されている時期です。 しかし成人期は、その立場から毎日が忙しく、社会参加や自主的な活動は、参加の意欲がありながら難しい状況にあります。 一方で成人の75歳以上を高齢期として区分し、65歳から74歳までを社会に参加しながら健康な高齢期に備える時期ととらえる動きもあります。65歳から74歳までの町の人口は1,411人で総人口の17.2%（令和4年6月末）を占めていますので、この世代を成人期に区分することで人材の幅は大きく広がります。しかしこの世代の現状としては、地域の中心的担い手として活躍する方がいる一方で、地域活動に消極的な方も少なくありません。 現在、町民を講師に迎えて、町の歴史、産業、自然等を町民が学ぶ機会を提供する「ふるさと講座」が町民有志によって運営され、さまざまにつながりが生まれ定着しつつあります。また、実行委員会が運営する「町民大学」では、高度で専門的な学習要求に応えるため、第一線で活躍している講師を招いて実施し、町民の貴重な学習機会になっていますが、参加数は講師の知名度に大きく左右される状況が続いています。また、ボランティア団体、PTA等の社会教育関係団体や有志によるグループ・サークルが自主的に講座や鑑賞会などの社会教育活動を行っており、これらの活動に対して教育委員会が必要な支援を行っています。 今後は、働き盛りの成人と退職後の成人がそれぞれの役割を補い合い、世代間、産業間等の連携をとりながら、世代を束ねるリーダーとなるよう積極的に地域と関わることを求められています。</p> <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふるさと講座」は、湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会および指導者養成の場として支援する必要があります。 ○ 「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開を奨励する必要があります。 ○ 時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要があります。 ○ 世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画やまちづくり等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要です。 ○ 学習を支援するコーディネーターを育成する必要があります。 	

令和4年度

令和4年度 第3次社会教育中期計画策定に係る第1回 第2部会(家庭教育・成人教育・高齢者教育)会議

と き 令和4年7月25日(月)
午後6時00分
ところ 上湧別農村環境改善センター A研修室

<会議日程>

1. 開 会

2. 議 事

議案第1号 第3次社会教育中期計画第2部会長の選出について

議案第2号 家庭教育・成人教育・高齢者教育における現状と課題について

その他

3. 部会長あいさつ ・ 閉会

湧別町教育委員会

領域	担当委員
生涯学習の基盤整備・社会教育施設・少年教育活動・青年教育活動	平野、工藤、鈴木、杉原、高野委員
家庭教育活動・成人教育活動・高齢者教育活動	山本・梅田・毛利・渡辺・山口委員
芸術文化活動・博物館文化財活動・文化施設	深谷・安瀬・武藤・三橋委員
図書館活動	図書館協議会委員
スポーツ活動・スポーツ施設	スポーツ推進員

第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（家庭教育）検討資料

第2次社会教育中期計画	第3次社会教育中期計画	備考
<p style="text-align: center;">第1節 家庭教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【家庭教育の現状と課題】 家庭教育はすべての教育の原点であり、出発点でもあります。 子どもにとって「家庭」は、子ども自身が家族から愛され、かけがえのない存在であることを実感し、心の安定と安心を得て「生きる力」を養う場所であるとともに、家族の歴史や生き方を学び、社会生活に必要な望ましい生活習慣やマナーなどを身につけるところです。 家庭を取り巻く環境は、多様で便利な生活が実現する一方で核家族化により家庭教育は孤立の傾向にあります。 生活スタイルや価値観の多様化は、地縁的なつながりを希薄にし、近所での気軽な話し合いや助け合いを減少させています。加えて核家族化は、親から子育ての援助や知恵が得られにくい状況をつくり出しています。とりわけ、子どもを通して他の親と交流する機会の少ない0～3歳児を持つ核家族の親にとっては、子育ての不安や悩みを相談しにくい環境に置かれているといえます。子どもはまちの宝であり地域全体で守り育てていかなければなりません。 現在、子どもの誕生を祝う民間有志団体が発足し、活動を続けています。一方、幼保小中高生の保護者を対象に家庭教育の大切さを学習する場として開催している「家庭教育研修会」は異年齢の親が一堂に会し、交流を深め、経験から学ぶ良い機会ですが、参加者が少ない状態が続いています。 <u>さらに、各校の教頭先生による「家庭教育推進員」としての活動および学校単位での「家庭教育学級」の活動、PTAにおける取り組みも親同士のよい交流機会となっておりますが、参加者数が少なく運営に苦慮するほか、学級の新規設置も進まない状況にあります。</u>周囲との関わりに消極的な家庭も見受けられるため、開催方法の工夫により参加を促すことも必要です。そのほか、個別の事情に寄り添う教育アドバイザーによる常設の家庭教育相談も実施しています。乳幼児期の家庭教育支援については、ブックスタートをはじめとする図書館事業や民間団体によるブックカフェの実施、子育て支援課による育児学級事業などがありますが、情報の発信・共有を含め連携が必要です。 子どもが置かれている環境は危うい状況です。社会のモラルが低下し、非人道的な犯罪が頻発し、有害な動画配信やSNS等を通して、大量の情報が刺激的に子どもたちの中に入り込んでいます。発達段階を無視して整理されないまま子どもの中に入ってくる大量の情報は、健やかな成長の阻害要因になり、いじめ、非行、犯罪への誘発要因ともなっています。家族が一緒に集い暮らし、団らんの語らいの中でゆったり行われる家庭教育の役割、重要度は、今日より大きくなっているといえます。</p> <p><今後の課題> ○ 家庭と地域の教育力向上を図るために、地域社会における家庭教育支援の大切さを広く周知する必要があります。 ○ 0～3歳児を持つ親への支援や団体間の連携を強化する必要があります。 <u>○ 「家庭教育学級」が、すべての学校で開設できるよう働きかけるとともに、「家庭教育研修会」の意義・役割を広める必要があります。</u> ○ 開催場所の設定にあたって保護者が集まるような場所に向向くことも、検討が必要です。 ○ 家庭教育支援に関わる機関 との情報の共有・連携を強化する必要があります。 ○ 孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要があります。</p>	<p style="text-align: center;">第1節 家庭教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【家庭教育の現状と課題】 家庭教育はすべての教育の原点であり、出発点でもあります。 子どもにとって「家庭」は、子ども自身が家族から愛され、かけがえのない存在であることを実感し、心の安定と安心を得て「生きる力」を養う場所であるとともに、家族の歴史や生き方を学び、社会生活に必要な望ましい生活習慣やマナーなどを身につけるところです。 家庭を取り巻く環境は、多様で便利な生活が実現する一方で核家族化により家庭教育は孤立の傾向にあります。 生活スタイルや価値観の多様化は、地縁的なつながりを希薄にし、近所での気軽な話し合いや助け合いを減少させています。加えて核家族化は、親から子育ての援助や知恵が得られにくい状況をつくり出しています。とりわけ、子どもを通して他の親と交流する機会の少ない0～3歳児を持つ核家族の親にとっては、子育ての不安や悩みを相談しにくい環境に置かれているといえます。子どもはまちの宝であり地域全体で守り育てていかなければなりません。 現在、子どもの誕生を祝う民間有志団体が発足し、活動を続けています。一方、幼保小中高生の保護者を対象に家庭教育の大切さを学習する場として開催している「家庭教育研修会」は異年齢の親が一堂に会し、交流を深め、経験から学ぶ良い機会ですが、参加者が少ない状態が続いています。</p> <p style="text-align: right;">周囲との関わりに消極的な家庭も見受けられるため、開催方法の工夫により参加を促すことも必要です。そのほか、個別の事情に寄り添う教育アドバイザーによる常設の家庭教育相談も実施しています。乳幼児期の家庭教育支援については、ブックスタートをはじめとする図書館事業や民間団体によるブックカフェの実施、子育て支援課による育児学級事業などがありますが、情報の発信・共有を含め連携が必要です。 子どもが置かれている環境は危うい状況です。社会のモラルが低下し、非人道的な犯罪が頻発し、有害な動画配信やSNS等を通して、大量の情報が刺激的に子どもたちの中に入り込んでいます。発達段階を無視して整理されないまま子どもの中に入ってくる大量の情報は、健やかな成長の阻害要因になり、いじめ、非行、犯罪への誘発要因ともなっています。家族が一緒に集い暮らし、団らんの語らいの中でゆったり行われる家庭教育の役割、重要度は、今日より大きくなっているといえます。</p> <p><今後の課題> ○ 家庭と地域の教育力向上を図るために、地域社会における家庭教育支援の大切さを広く周知する必要があります。 ○ 0～3歳児を持つ親への支援や団体間の連携を強化する必要があります。 <u>○ 保護者同士の交流を図る機会を創出する必要があります。</u> ○ 開催場所の設定にあたって保護者が集まるような場所に向向くことも、検討が必要です。 ○ 家庭教育支援に関わる機関や子育て支援担当部署との情報の共有・連携を強化する必要があります。 ○ 孤立しがちな子育て世代を支援するため、ボランティアを育成する必要があります。</p>	

第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（成人教育）検討資料

第2次社会教育中期計画（素案）	第3次社会教育中期計画（会議結果を反映）	備考
<p style="text-align: center;">第4節 成人教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【成人教育の現状と課題】 成人期は、職場や家庭、地域において、中心的な役割を担い、体力、知力的に最も社会に貢献できる時期であり、それぞれの立場で、地域や団体活動の中心的役割を果たすことが期待されている時期です。 しかし成人期は、その立場から毎日が忙しく、社会参加や自主的な活動は、参加の意欲がありながら難しい状況にあります。 一方で成人の75歳以上を高齢期として区分し、65歳から74歳までを社会に参加しながら健康な高齢期に備える時期と定義する動きもあります。65歳から74歳までの町の人口は1,411人で総人口の17.2%（令和4年6月末）を占めていますので、この世代を成人期に区分することで人材の幅は大きく広がります。しかしこの世代の現状としては、地域の中心的担い手として活躍する方がいる一方で、地域活動に消極的な方も少なくありません。 現在、町民を講師に迎えて、町の歴史、産業、自然等を町民が学ぶ機会を提供する「ふるさと講座」が町民有志によって運営され、さまざまにつながりが生まれ定着しつつあります。また、実行委員会が運営する「町民大学」では、高度で専門的な学習要求に応えるため、第一線で活躍している講師を招いて実施し、町民の貴重な学習機会になっていますが、参加数は講師の知名度に大きく左右される状況が続いています。また、ボランティア団体、PTA等の社会教育関係団体や有志によるグループ・サークルが自主的に講座や鑑賞会などの社会教育活動を行っており、これらの活動に対して教育委員会が必要な支援を行っています。 今後は、働き盛りの成人と退職後の成人がそれぞれの役割を補い合い、世代間、産業間等の連携をとりながら、世代を束ねるリーダーとなるよう積極的に地域と関わることを求められています。</p> <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふるさと講座」は、湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会および指導者養成の場として支援する必要があります。 ○ 「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開を奨励する必要があります。 ○ 時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要があります。 ○ 世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画やまちづくり等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要です。 ○ 学習を支援するコーディネーターを育成する必要があります。 	<p style="text-align: center;">第4節 成人教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【成人教育の現状と課題】 成人期は、職場や家庭、地域において、中心的な役割を担い、体力、知力的に最も社会に貢献できる時期であり、それぞれの立場で、地域や団体活動の中心的役割を果たすことが期待されている時期です。 しかし成人期は、その立場から毎日が忙しく、社会参加や自主的な活動は、参加の意欲がありながら難しい状況にあります。 一方で成人の75歳以上を高齢期として区分し、65歳から74歳までを社会に参加しながら健康な高齢期に備える時期ととらえる動きもあります。65歳から74歳までの町の人口は1,411人で総人口の17.2%（令和4年6月末）を占めていますので、この世代を成人期に区分することで人材の幅は大きく広がります。しかしこの世代の現状としては、地域の中心的担い手として活躍する方がいる一方で、地域活動に消極的な方も少なくありません。 現在、町民を講師に迎えて、町の歴史、産業、自然等を町民が学ぶ機会を提供する「ふるさと講座」が町民有志によって運営され、さまざまにつながりが生まれ定着しつつあります。また、実行委員会が運営する「町民大学」では、高度で専門的な学習要求に応えるため、第一線で活躍している講師を招いて実施し、町民の貴重な学習機会になっていますが、参加数は講師の知名度に大きく左右される状況が続いています。また、ボランティア団体、PTA等の社会教育関係団体や有志によるグループ・サークルが自主的に講座や鑑賞会などの社会教育活動を行っており、これらの活動に対して教育委員会が必要な支援を行っています。 今後は、働き盛りの成人と退職後の成人がそれぞれの役割を補い合い、世代間、産業間等の連携をとりながら、世代を束ねるリーダーとなるよう積極的に地域と関わることを求められています。</p> <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「ふるさと講座」は、湧別町の歴史、産業、自然等を学ぶ機会および指導者養成の場として支援する必要があります。 ○ 「町民大学」は、来場者数を目標とするだけでなく、参加者（団体）や実行委員と講師とのつながりをより深めるなど、人材育成の側面も意識した事業展開を奨励する必要があります。 ○ 時間的余裕のない成人期のニーズや、退職後の世代の多様なニーズに応えられるよう、情報提供も含め参加し活躍する場を創出する必要があります。 ○ 世代間交流、異業種間交流を推進し、まちづくりの人材育成を図るため、企画やまちづくり等、町の他部局との情報共有も含めた連携強化が必要です。 ○ 学習を支援するコーディネーターを育成する必要があります。 	

第3次湧別町社会教育中期計画 現状と課題（高齢者教育）検討資料

第2次社会教育中期計画	第3次社会教育中期計画	備 考
<p style="text-align: center;">第5節 高齢者教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【高齢者教育の現状と課題】 年齢や家庭状況、健康状態等によっても差異がありますが、時間的に余裕のある高齢期は、長年培ってきた知恵や経験、技能を生かした社会参加を通して、生きがいのある充実した生活をおくることが期待されています。</p> <p>湧別町の65歳以上の人口は、全体の<u>37.0%</u>、75歳以上では<u>21.2%</u>（いずれも平成29年6月末）を占めています。地域づくり、まちづくりにおける高齢者の果たすべき役割はより大きくなっており、地域の教育力を高めることにもつながっています。</p> <p>現在の取り組みとして、<u>湧別地区には生きがい大学、上湧別地区には寿学級が開講されていますが、80歳以上の高齢層が占める割合が増え、自主運営が難しくなってきたことから、基盤強化のため統合に向けた話し合いが進んでいます。2つの高齢者学級では、健康づくりや医療、福祉、終活などをテーマとした学習のほか、演芸やレクリエーションで交流活動が行われています。</u></p> <p>また、受身の学習ばかりではなく、学校児童生徒との交流会、子ども百人一首教室の指導など、高齢者が外向いて活躍する場も増えています。</p> <p>しかし、積極的にグループに所属などして、活発に活動する高齢者がいる一方、地域、社会との交流を持たず、家に引きこもりがちな高齢者が少なくないのも現実です。今日的課題として、要介護（要支援を含む）認定者数が町内で<u>600人を超える</u>など、介護予防の必要性が高まっており、その対応も求められています。</p> <p>高齢者が家族に尊敬され、地域で頼りにされ、感謝される喜びの中で生きがいを持てるようにすることが重要です。</p> <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「高齢者学級」では、主体的な取り組みを可能にする支援が必要です。 ○ 高齢者が持つ知識や経験、技能を地域や次世代に伝える機会を提供し、生きがいを持てるようにする必要があります。 ○ 家にこもりがちな高齢者に、地域の身近な情報を提供するとともに、より参加しやすい少数人数でのグループ活動などの場を創出する必要があります。 ○ 60代で退職し、第2の人生をスタートした方たちが、地域の団体に加入する等、積極的参加を促すとともに活躍の場を提供する必要があります。 	<p style="text-align: center;">第5節 高齢者教育の現状と課題・推進目標・推進項目</p> <p>【高齢者教育の現状と課題】 年齢や家庭状況、健康状態等によっても差異がありますが、時間的に余裕のある高齢期は、長年培ってきた知恵や経験、技能を生かした社会参加を通して、生きがいのある充実した生活をおくることが期待されています。</p> <p>湧別町の65歳以上の人口は、全体の<u>39.4%</u>、75歳以上では<u>22.2%</u>（いずれも令和4年6月末）を占めています。地域づくり、まちづくりにおける高齢者の果たすべき役割はより大きくなっており、地域の教育力を高めることにもつながっています。</p> <p>現在の取り組みとして、<u>平成30年4月に「生きがい大学」「寿学級」を統合した「チューリップ生きがい大学」が開講されています。</u></p> <p style="text-align: right;">高齢者学級では、健康づくりや医療、福祉、終活などをテーマとした学習のほか、演芸やレクリエーションで交流活動が行われています。</p> <p>また、受身の学習ばかりではなく、学校児童生徒との交流会、子ども百人一首教室の指導など、高齢者が外向いて活躍する場も増えています。</p> <p>しかし、積極的にグループに所属などして、活発に活動する高齢者がいる一方、地域、社会との交流を持たず、家に引きこもりがちな高齢者が少なくないのも現実です。今日的課題として、要介護（要支援を含む）認定者数が町内で<u>650人を超える</u>など、介護予防の必要性が高まっており、その対応も求められています。</p> <p>高齢者が家族に尊敬され、地域で頼りにされ、感謝される喜びの中で生きがいを持てるようにすることが重要です。</p> <p><今後の課題></p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「高齢者学級」では、主体的な取り組みを可能にする支援が必要です。 ○ 高齢者が持つ知識や経験、技能を地域や次世代に伝える機会を提供し、生きがいを持てるようにする必要があります。 ○ 家にこもりがちな高齢者に、地域の身近な情報を提供するとともに、より参加しやすい少数人数でのグループ活動などの場を創出する必要があります。 ○ 60代で退職し、第2の人生をスタートした方たちが、地域の団体に加入する等、積極的参加を促すとともに活躍の場を提供する必要があります。 	